

【3月市議会最終日】開発のムダづかい・福祉切捨てに“待った！”

熊本城桜の馬場「渡り通路」2億円ストップ

桜の馬場に

「渡り通路」はいらない！

予算委員会の総括質疑や担当の分科会では、桜の馬場の渡り通路・エレベーターは「必要あるのか？」の意見が相次ぎました。

第1に、特別史跡熊本城の追加指定予定地であり、景観上問題です。

第2に、「バリアフリー」が設置理由でしたが、たとえつくっても、未申櫓下側から頼当御門まで坂道をさらに歩いて登っていかなければならず、シャトルバス運行で充分です。

第3に、全局にわたり10%の予算シーリングという厳しい予算編成の中で、効果・必要性の薄い「渡り通路」への2億円の投資はムダです。

予算委員会全体会で、

建設費削除を求める動議

予算委員会で、異論が相次いだ熊本城・桜の馬場「渡り通路」建設費2億円は、3月25日に開催された予算委員会全体会で、市民連合から提出された予算の削除を求める動議が賛成多数で可決されました。翌日の本会議においても、公明党を除くすべての会派の賛成で予算削除が決定され、建設はストップしました。

市民にも、議会にもほとんど説明のないまま突然提案された桜の馬場「渡り通路」ですが、市議会は「大型開発なんでもあり」に「ノー」の審判を下しました。

国民健康保険針灸あんま助成「60回」存続

国民健康保険の大きな累積赤字が引き金となって提案されていた「針灸あんまへの助成」の受診回数削減にも、反対が相次ぎました。

上野議員が参加する予算委員会保健福祉分科会では、「未来」を除くすべての会派の一致で、「針灸あんま助成の受診回数削減は認められない」との委員長取りまとめが行なわれました。

針灸あんま助成は、(現行)ひとり年60回まで、(提案)は年30回に削減するというものです。現行制度維持に必要な予算は、年間1,750万円です。

25日の予算委員会全体会で、幸山市長は「年45回とし、翌年から30回」と答弁をしました。市民の健康維持や携わっている事業者にも大きな影響を及ぼす回数削減はすべきではありません。

【控室から】 意思の表明

上野 みえこ

いただいた一輪の翁草を窓際に飾りました。ひっそりと咲く花にも、心和ませられます。庭には、椿や利休梅、花カタバミ、クリスマスローズなどが、元気な雑草に負けじと美しい花を咲かせています。チューリップやハナミズキの蕾も膨らんできました。花たちは語りませんが、思いを色や形・香りに表現しているのでしょうか。

先日、政令市移行後の「区割り」を審議する行政区画等審議会が開かれました。提案されていた5区案・6区案に異論が相次ぎ、委員から4区案も示される中、審議の行方を市民も注目していました。当日委員席には、提出された100を超える陳情も配布されていました。3区案・4区案はあつてなく対象からはずされ、5区案に絞った審議へとすすめられていきました。居住地の区役所ではできない業務や区バスの運行、住民にかかわる大事な問題が、住民に納得いく説明もされないまま、区割りの審議はすすんでいきます。発言を許されない傍聴者は、意見をどう表明すればよいのでしょうか。私たちは、庭の花たちのように、語る言葉を持たずに、住民不在の審議会を見守りました。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

ますだ牧子 上野みえこ なすまどか

熊本市手取本町1-1 議会棟3階 HP: <http://www.jcp-kumamoto.com/>

NO 702

2010年4月4日

電話 328-2656

FAX 359-5047

メール: kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

西部環境工場代替施設問題

焼却を減らし、規模縮小し、ストーカ炉を直営で!!

第3回焼却炉及び事業方式検討委員会、「溶融なし」を選定

3月26日に開催された焼却炉及び事業方式検討委員会は、公開で開催され、「焼却炉」の選定について熱心な論議が交わされました。Aケース(溶融なし)とBケース(溶融あり)について、「環境保全」「安全性」「環境負荷低減」「最終処分量削減など」「トータルコスト(施設建設費、維持管理費など)」の5項目をキーワードに、比較・検討が実施されました。(下図はAケース:溶融なし)

灰溶融スラグ資源化は「地下水が脅かされる」と警鐘乱打

多くの委員からは、灰溶融で発生するスラグの道路工事などへの使用については、「地下水保全」の立場から、安全性に疑問が出されました。Aケース(溶融なし)が「環境負荷低減」や安定性、実用性などで優位となり、総合評価で高得点となりました。検討委員会は、今後4月・5月に第4回、5回開催され、事業方式として、PFI等民間活力導入の検討が行われます。5月下旬にまとめ、「事業手法の方針及び焼却炉方式等」を市長に答申する予定です。

「生ゴミ資源化」など「ごみ処理基本計画策定」の優先を!

3月議会の環境水道委員会には、小島上町ゴミ焼却場建設反対実行委員会(未来を守る会)清永喜代美代表から出された「ゴミ焼却から脱ゴミ焼却へ、ゴミ行政の転換、特に生ゴミのリサイクルを早急に実施する」ことを要望する陳情が提出されました。益田牧子議員は、水俣市が、『ゼロ・ウェイスト宣言』を行い、「2026年までに、ごみ処理を焼却や埋立に頼らないまちづくりのしくみづくり」を宣言していることを紹介。(下の囲み参照)熊本市でも、「市民参加で、ごみ減量・リサイクル推進基本計画を策定し、燃やすごみを大元から減らすこと」を優先すべきだと指摘しました。生ゴミの資源化も、県下でも水俣市や宇土市ではすでに実施されており、早急に取り組むよう求めました。

西部環境工場代替施設については、日量300トンをもっと縮小し、ストーカ炉を採用し、PFIでなく、直営で行うことを要望しました。

水俣市に学び「ゼロ・ウェイストのまちづくり宣言」を!!

昨年11月22日策定「ゼロ・ウェイストのまちづくり水俣宣言」抜粋

私たち水俣市民は、大切なふるさと水俣の自然をけがさず、全ての生き物の命と健康を脅かさないため、2026年までに、ごみ処理を焼却や埋立に頼らないまちづくりのしくみをつくります。

私たち水俣市民は、1992年「環境モデル都市づくり宣言」以来、私たちが続けてきた取り組みと努力に誇りを持ち、この経験と成果を生かしてゼロ・ウェイスト宣言を進めます。

私たち水俣市民は、ゼロ・ウェイストの取り組みを進めるためには、市民・事業者・行政が必要な情報を共有し、継続的に話し合う場を設け、常に目標・行動・成果を見直しながら、協働で取り組みます。

私たち水俣市民は、志を同じくする日本中・世界中の人々や自治体と手をつなぎ、連携して問題解決を図り、日本と世界の環境をよくするゼロ・ウェイストの仲間づくりを進めます。